

## 日本人の「笑い」の談話機能

早川 治子

### 1. はじめに

「ジャパニーズ・スマイル」という表現がある。日本人は意味なく笑うとも言われる。しかし、それは本当に意味のない「笑い」なのだろうか。むしろ反対に、きわめて意味のある日本的な表現活動なのではあるまいか。日本語学習者が日本語の上手に使いこなすには、日本人のように「笑う」ことが「文法的に正しい文を使うこと」、「適切にあいづちを打つこと」と同様の必須条件であると考えられる。本研究は日本語の談話展開上のストラテジーとしての「笑い」がそれぞれのコンテキストにおいてどのように作用するかを探るのを最終目的とするが、本稿はその第一歩として後述する資料のうち現段階で分析可能なものに見られる「笑い」の持つ談話機能の実態の把握を行う。

### 2. 資料

今回扱った資料は、現代日本語研究会が共同研究で収集した録音資料中の4時間半分のテープを文字化したものである。用例は作例とことわってあるもの以外すべては同資料中から採録したものである。

### 3. 本稿で扱う「笑い」の範囲と形態

「なぜ笑うのか」ともし聞かれたら普通おかしいからと答えるだろう。しかし、人はおかしくなくても笑うことがある。例えば、以下の2例は資料中に見られたものである。

- (1) A：あー、そうですか。有り難うございます。(笑いながら)  
(2) A：あんまり、あの、遠い方はまた、旅費の関係が一。(笑い)  
B：お金がないよねー。(笑い)  
A：予算がないものですから一。(笑い)  
B：予算がないもんねー。(笑い)

例(1)は電話の会話の例である。例(2)は打ち合わせをしながらAがBに講演を依頼しているものであるが、これ以前の話題では全然笑わなかった二人が、お金の話題になって、急に笑い出す場面である。いずれも内容的には別におかしくはない。本稿では、これらのおかしくなくても笑う例を中心に、観察・分析してみたい。しゃれ、冗談、事実のおかしさに対する「笑い」のたぐいは、今回は扱わない。別におかしくないのに会話を進める上でのテクニックとして笑う例に限ることとする。

また、笑いには「ほほほ」、「あはは」など種々の音声表現の形態がある。それぞれ意味が異なると考えられるが、今回はすべて「笑い」に一括し、その長さについても考慮しないこととする。また、音として出ない「笑い」、いわゆる「スマイル」についても扱わない。しかし、笑いながら発する発話は扱う。これは今回集めた談話資料が「笑い」の音声表現の形態、長さを細かく採録していないこと、又、録音テープによる採録のため話者の表情まで論議できないことによる。

#### 4. 「笑い」の参加者

当然のことながら、しばしば談話の参加者(話し手、聞き手)は同時に笑うことができる。ここに、「笑い」が他の言語行動と異なる特徴がある。例えばAとB二人の人物が会話をしている場合、二人の発話は turn-taking (交代)をしながら、談話線上に交互に現れるのが普通である。もし両者が同時に発話するような場合は一種の破格と見なされる。例えばあ

いづち、うなずきなどは「笑い」と同様にいわゆる非言語行動と分類されているが、それらも、話し手の談話線上に挿入される形で現れ、話し手、聞き手が同時にあいづちを打つ、同時にうなづくということはない。これと対照的に「笑い」は、「爆笑」のような形で、話し手と聞き手が同時に談話に参加することができる。のみならず、「笑い」は話し手、聞き手が同時に笑う場合が多く、話し手が笑うと笑っていなかった聞き手も誘い込まれるように笑ったり、微笑を浮かべたりする場合が多く、反対に話し手、聞き手の一方のみが笑う場合は、談話上それぞれ意味を持つと考えられる。

また、講演会などで、講演者の発言に聴衆が「笑い」で応じるような場面がある。つまり、「1」対「多」の場面においても、複数の聞き手が「笑い」によって、同時に談話に参加することができるのである。

## 5. 「笑い」の使用場面の実態

人は様々な場面で、「笑い」によって種々の意図を表現しようとする。今回の資料中に見られる「笑い」は、A：バランスをとるための「笑い」、B：仲間造りの「笑い」、C：フィラー(Fillr)としての「笑い」に大きく分けられた。

5-1：バランスをとるための笑い

5-1-1：照れによる「笑い」／緊張緩和の「笑い」

自分の存在や言動を人から注目されて緊張し、照れ笑いすることがある。

例(3)は年齢を尋ねられたBが、照れて笑っている場面である。

(3) A：\*\*\*ちゃん、まだ22歳だけ。

B：来年で(笑い)、23で一す。(笑い)

(4)は録音開始場面でインフォーマントが笑っている例である。

(4) A：えー、あの。

B：はい。

A：特に、何も。

B：（笑い）

A：すみません

B：我々のことがチェックされるわけですか。

A：いえいえ。

B：（笑い）そういうわけじゃないですか。

自分の会話がテープに録音されることは、インフォーマントにかなりの緊張を強いるということなのだろう。（インフォーマット）話者へはこの緊張を柔らげて自分自身の精神のバランスをとるために笑っていると考えられる。(4)においても「笑い」という緩和表現がなかったら会話そのものがギクシャクしたものになるばかりでなく、話者自身がかなりの緊張状態にあると解釈される。

(4')の作例

(4')A：えー、あの。

B：はい。

A：特に、何も。

B：（沈黙）

A：すみません

B：我々のことがチェックされるわけですか。

A：いえいえ、

B：（沈黙）そういうわけじゃないですか。

(4')は(4)が（笑い）を（沈黙）に置きかえた作例であるが、Bは緊張して笑うところではないと解釈される。講演会などで講演者が話のはじめの部分で話しながら意味なく笑ったり、テレビの街頭インタビューに答える市民が意味なく笑っているのもこの種の「笑い」であると考えら

れる。

5-1-2: 恥による「笑い」

これは5-1-1の「照れ笑い」によく似ているが発話者が自分の行為の失敗や自分のいたらなさを恥じて笑っているという点が特徴的である。

(5) A: 結局、あの一、やっぱり年ですね。ぼけちゃってね、だめ  
なんですよ。(笑い)

B: ねえ、先生が年だなんておっしゃったらねえ。

例(5)では発話者Aが自分の年老いてぼけたことを恥じ、それを笑い飛ばそうとしている。ここに「笑い」がなかったとすると、深刻な場面になるが、「笑い」によって救われているのである。つまり、これも事実の深刻さを笑うことによって緩和し、バランスをとろうとしている。バランスをとるばかりか「笑う」ことにより自分に事実を笑いとはす余裕のあると装っているとも考えられる。しかし、おもしろいことに、この種の「笑い」に(5')の作例のように「笑い」で応じることは礼を失することになる。

(5') A: 結局、あの一、やっぱり年ですね。ぼけちゃってね、だめ  
なんですよ。(笑い)

B: (笑い)

(5')はBの「笑い」によってAの述べたことを否定しないことになってしまう。日本語では話し手が話し手自身の欠点について述べた場合、聞き手はそれを否定するか、完全に同意することを何かの形で回避しなければならないという原則が働いていると考えられるから、笑うことにより、それは先の原則を逸脱した行為、すなわち、相手に対して失礼な行為になってしまう。

5-1-3: 相手に対して言っていることの内容を軽くするための「笑い」

相手に対して自分の言っていることの内容の重さを軽くしたい、緩和したいということが目的の「笑い」がある。(6)は人にドーナッツを差し出しながらの発話であるが、相手にもものを受け取ることの負担を与えたくな

いという気持ちが「笑い」となって現れたのではないかと思われる。

(6) A : みんなで食べてください。(笑い)

例(7)は、職員室での教員同志の会社であるが、教師Aが教師Bに学生に教室内の机を下げないように伝えてほしいと要求する場面であるが、AがBに要求するという行為の厚かましさを和らげるために笑っているのではないかと考えられる。

(7) A : でも間違えて机下げちゃったりなんかすると大変ですよ。

(笑いながら) なぜかとゆうと、月曜日の一時間目、私の授業なの。(笑い) だから下げないように、戻すように言っといてください。(笑い)

(8)は職員室に来た言い方のはっきりしない学生に対する教師のことばであるが、内容の厳しさを和らげるために笑っていると考えられる。

(8) A : はっきり、はっきり思っていることをいう。(笑い)

ものごとに関する批判的なコメントにも、この種の「笑い」が伴うことが多い。資料中ではお金に関するコメントにこの種の「笑い」が特に多くみられた。

(9) A : ちっと高いでしょ。

B : たーかーいですよ。(笑い)

(10) (神奈川県講演料について)

A : 神奈川県は安くつくからなあー、なんて、知事に言われちゃって。(笑い)

B : そーね。いえ県のほうがまだ、いいんですよ。

A : 県のほうがいい。(笑い)

B : えー

A : 労働省やすいんだもん。(笑い)

先にあげた例(2)もこれにあたる。

(2) A : あんまり、あの、遠い方はまた、旅費の関係が一。(笑い)

B : お金がないよねー。(笑い)

A : 予算がないものですから。(笑い)

B : 予算がないもんねー。(笑い)

この種の「笑い」は(6),(7)のように要求表現、(8)のように命令表現、(9)、(10)、(2)のようにコメントの表現とともに現れる以外に、(11)のように提案表現とともに現れることも多い。

(11) A : じゃあ、この、点減ってゆうふうにごー、フェジーな表現がいいんじゃないですか。(笑いながら)

これらの例もしその「笑い」がない場合を想像して読んでみると、その会話がかかるいトゲトゲしたものになることがわかる。

## 5-2 : 仲間造りの「笑い」

### 5-2-1 : 場面を盛りあげる「笑い」

人は非常にうれしいときは笑うことが多い。例えば一億円の宝くじが当たり、うれしくて一人天を仰いで呵々大笑するというのはいかにもありそうな図である。しかしここで観察するのは、このような生理的な「笑い」ではなく、かなり社会的側面の強い「笑い」である。例えば、かわいい子犬を見たときに女の子などが「かわいいー、うふふ」と笑うことがある。これはかわいらしいものを見たことによって、筋肉が弛緩して生理的に笑うという側面もあるだろうが、同時に、きわめて社会的な側面も含んでいる。なぜならこの種の「笑い」は必ず聞き手の存在を必要とするものだからである。

(12) (ドーナッツをおみやげにもらって)

A : あっ

B : あー (ほとんど息)、こんなにいっぱい入ってる。

C：うふー（息を吸いながら感嘆している音）、ひょー、ほっほー  
（笑い）

（中略）

A：すごーい

B：どーしょ（笑い）

C：あっ、すごーい！

A：やっぱ、\*\*さんより趣味がいいな。

B：ね！（笑い）

これは昼休みにドーナツをもらって皆がよろこんでいる場面である。  
笑うことによって場がどんどんと盛り上がっている様子がよくわかる。

(13)も、笑いによって場が盛り上がっているものである。

(13)A：（笑い）もうホントにいい先生がいるのよねえ。

B：ふーん。

A：それで、もう、うちの子供なんか、恋をしてる程大好きで、  
「だいしゅき、だいしゅき」とかゆっ（笑い）

B：（笑い）かわいー。(笑い)

A：（笑い）で、みんなに「だいしゅき」坊やとか言われてる。

A/B：（笑い）

5-2-2：人を誘い込みたいときの「笑い」

相手の反応を呼び込みたいときにも、人は笑う。

(14)職員室に持ってきた花の名前を尋ねられて)

A：なんの花なの？

B：これねー、（間）

ウフ、待って。（笑いながら）あかめやなぎ

A：あかめやなぎ？

B：ええ。

話者Bは笑うことによって聞き手を自分の話題に引き込み、それに対して相手が反応してくれることを期待している様子が観察される。(15)相手を自分に注目させて、新しい話題に誘い込もうとしている。

(15) (沈黙8秒)

A : . . . あ、そうそうそうそう。ねーね、聞いてあたしあたし(笑いながら)

5-2-3 : 共通の理解を持つ仲間のあいだの「笑い」

5-2-2に似た「笑い」として、共通の理解を示すときの「笑い」もある。

(16) A : ほほ . . . でも、私なんか、なんか、あの、よくあるじゃないですか。お見合いの時に聞かれる、あれのような心境になって。(笑い)

B : 興信所みたいな。(笑い)

A : なんか、よく、ほら、私もそういう年になってきたのかなと思っちゃって。(笑い)

Aが笑うことによって、Bがお互いの共通理解に基づいてAの話を補足するような発話をして、談話が進行している。この種の「笑い」には話し手と聞き手の話題のバックグラウンドの共有だけでなく二人の参加者の一体化、二人の世界を共有することによって仲間意識を高め、反対に、仲間以外の世界に閉じていくものが多い。わかっている者だけに通じる「笑い」、女の子同士のクスクス「笑い」といったものである。(17)、(18)にこの笑いの特徴がよく現れている。

(17) A : なんか頭わりいよね、みんな。

B : (笑い) わりいよな。

(18) A : 今出まーすつつって。

B : 今出るって。

A/B：そば屋の出前（笑い）

A：知ってる？（Cに向かって）

なんでもね、今、今やりますとかね、今、行っ、行ったばかりですとかね、そういうふうにね、嘘つくっていかね、そういういいわけするのをね、そば屋の出前っていうの。

日本語で。

(18)では、A、Bが出前の遅いそば屋に電話して、その返事について笑っている。しかし、その場面に居合わせた外国人CをA、B二人だけでわかり合って笑ってしまって阻害してしまったため、その内容を説明して、Cを仲間に取り込もうとしている。

5-2-3：親しみの「笑い」

この「笑い」も、前のFの「笑い」に似ているが、これはもともになる共通理解を共有していない点が異なる。もともと仲間でない聞き手に対してを笑うことによって敵対意識がないことを認識させ、「疑似仲間」とし、関係づけるところに特徴がある。

(1)（でんわで）

A：あーそうですか、有り難うございます。（笑いながら）  
また一度破綻しそうになった人間関係を修復するために、敵対意識のないことを示すために笑うことがある。—ご機嫌を取り結ぶための「笑い」、いわゆる、営業用の「笑い」等の場合が多い。

5-3：フィラー（Filler）としての「笑い」

5-3-1：ごまかしの「笑い」

はっきり言いたくない内容を笑ってごまかす場合がある。

(19)（職員会議で）

A：あと進路ニュース（間）は一ほんとはもうちょっと違うこ

と書こうとおもったんですけどスペースの問題とかいろいろあって、(間) 今日は一、この内容でー(笑い)、とゆう具合でー、また継続して出して行きます。

(20) A : あるんですよ。いろいろと。

B : はあ

A : いろいろと……(笑い)

あることを言いたくないのではあるが沈黙してしまうと、余りにも角が立つことから何か発話していなければならないのであるが、相手に対する敵意がないことも示したいがために、「笑い」がフィラー(FILLER)として選ばれたと考えられる。

5-3-2 : とりあえずの「笑い」

言いたくない内容を隠すためではないがどう反応していいかわからず、とりあえず反応しておこうという場合にも、「笑い」が使われる。

(21) A : だからそれがすけてんのよ。

B : (笑い)

A : もう、パンツ見える?

B : 見えてるね

A : こおんな、いいよもうここだけだから。

B : (笑い)

(21)はAが洋服についてBにコメントを求めている。話題に対する積極的な参加でもないし、又、不参加でもない。「聞いています、あなたと敵対関係になりたくない」というメッセージのこもった笑いなのではないかと考えられる。

## 6. まとめ

以上の例から今回見られた「笑い」は、5-1: バランスをとるための「笑い」5-2: 仲間造りの「笑い」5-3: フィラー(Filler)としての「笑い」に大きく分けられる。これら「笑い」の境界は明確に区別できるものでもなく、一つの「笑い」が二つの意味を持つこともある。また、ある「笑い」がコンテキストのなかでどのように働いているかは、その談話の解釈によって違うということが考えられる。しかし、以上の三種の「笑い」に共通していることは「笑い」によって緊張と緩和、又は避け、コミュニケーションを協調方向に持っていこうという意図であることである、しかし、「笑い」には、「嘲笑」のように「協調」とは逆方向の「笑い」もある。今後の検討課題としたい。

本稿の原案段階において現代日本語研究会の談話研究班メンバーである高崎みどり、宇佐美まゆみ、本田明子の3氏にいろいろご意見をいただいた。感謝したい。

## 参考文献

- 海保博之、原田悦子(1993)『プロトコル分析入門』光明社
- Sacks, Harvey (1992) 'Lectures on Conversation', Blackwell
- 山口昌男、(1990)『笑いと逸脱』ちくま文庫 築摩書房
- 野村雅一、(1994)「変容する笑いの文化」『言語』Vol.23・No.12.  
大修館書店
- 橋元良明、(1994)「笑いのコミュニケーション」『言語』Vol.23・No.12.  
大修館書店